

大阪湾シギ・チドリ渡来地復元計画

— ネイチャーポジティブの実現のために —

日本野鳥の会大阪支部
支部長 納家 仁



2025. 9. 15 国際シンポジウム 大阪湾岸「いのち輝く」を未来へ

なぜシギ・チドリなの？

シギ・チドリを守ることは・・・ 干潟の生物多様性を守ること

- 干潟は魚介類、エビやカニ類の稚魚や幼生が育つ場所
- たくさんの干潟の生物が有機物を体に取り込み海水を浄化
干潟は藻場とともに、漁業にとって極めて重要な環境
- 干潟は、そこにすむ生き物を食べるシギやチドリの生存を
ささえる最も重要な環境
- 大阪湾の干潟は、東京湾、伊勢湾、有明海の干潟同様に長い年月
をかけて生成されたもの

しかし、わずか100年余りの間に大阪湾奥部の1000haに及ぶ
広大な干潟が壊滅的なまでに埋め立てられてしまった

- 干潟が失われた今も大阪湾岸部の埋立途上地などにシギやチドリ
が飛来、近年は夢洲が最大の渡来地となっていた

シギ・チドリ類

縮めて「シギチ」と呼ぶことが多い

チドリ目のシギ科とチドリ科鳥類※の総称

※ミヤコドリ科、セイタカシギ科、レンカク科、タマシギ科、ツバメチドリ科を含む

大阪では、シギ科47、チドリ科11の他、ミヤコドリ科1、セイタカシギ科2、レンカク科1、タマシギ科1、ツバメチドリ科1の**64種**が記録されている。

大阪で記録のある鳥類約**360種**の**6分の1**にあたる。



コアオアシシギ夏羽



トウネン、ハマシギ、シロチドリ



メダイチドリ夏羽

むくどり通信 288号
特集 2025.5月
大阪で見られる
シギ・チドリ類

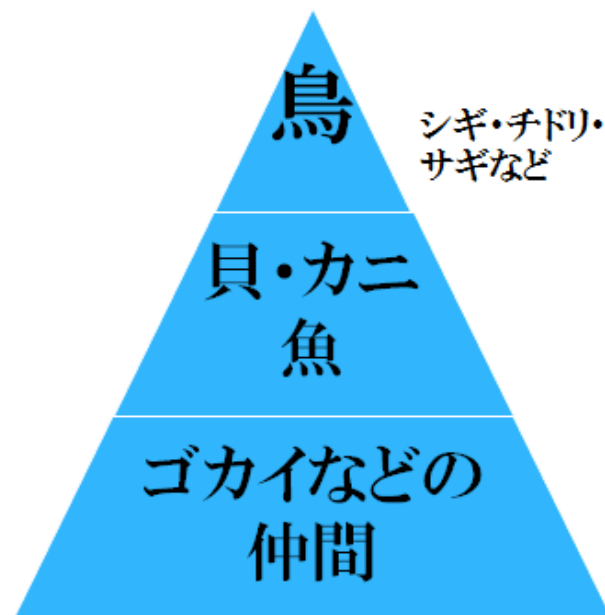
当会場で頒布中



シギやチドリなどの生命を支える 干潟の生きものたち

干潟の食物連鎖

- 干潟は、シギ・チドリなどの渡り鳥の大切な中継地であり、干潟に生きるたくさんのゴカイやカニ、貝、魚などの生き物が、鳥たちの貴重な食物となっている。
- 干潟は、シギやチドリの生存をささえる最も重要な環境



ヤマトオサガニ



ハクセンシオマネキ



ゴカイの仲間

ゴカイを食べる



メダイチドリ



ながーいゴカイを食べるオオソリハシシギ

貝を食べる



ミヤコドリ

カニを食べる



ダイシャクシギ



カラフトアオアシシギ



オバシギ

■失われた湾岸部の自然



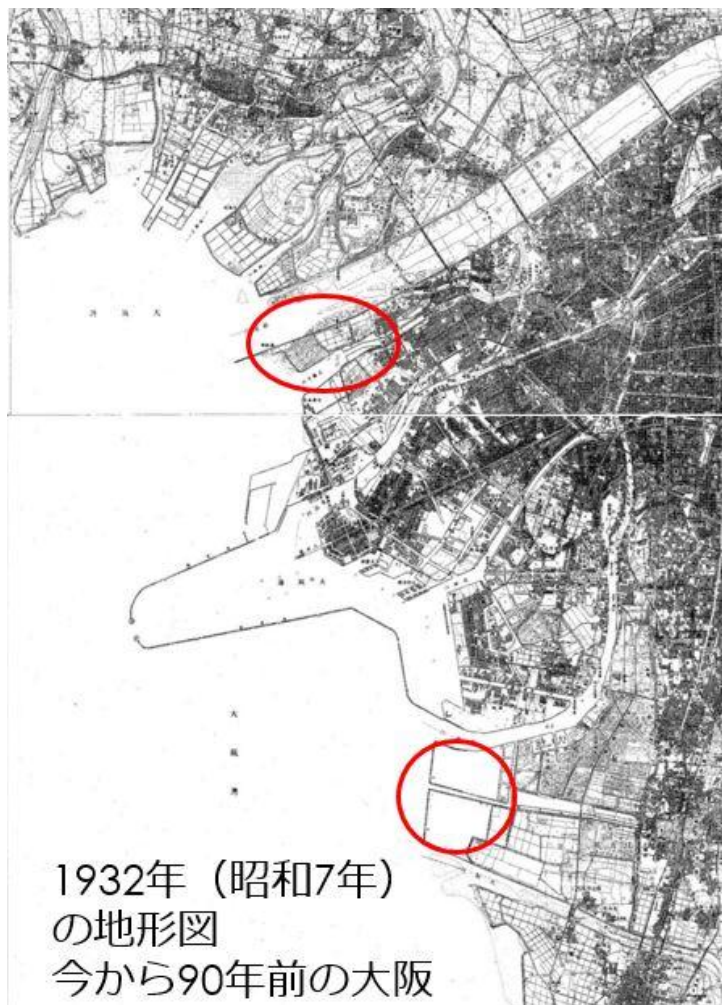
秋の淀川河口 90年前の光景
「大淀の秋」堀田光鴻 1934年
(当時の日本野鳥の会大阪支部幹事)



出典：瀬戸内海の環境保全 資料集 (2020年3月)

堺市 大浜の潮干狩の様子(昭和初期頃)
大和川河口から北大浜にかけての一帯には
100ヘクタールに及ぶ干潟が存在した

大阪湾奥部の対比 およそ90年の変化



※大正期から戦前にかけての淀川河口
や住吉浦の状況は、大阪支部の先人、
榎本佳樹の「鳥」や「野鳥」への報文
から読み取ることができます。



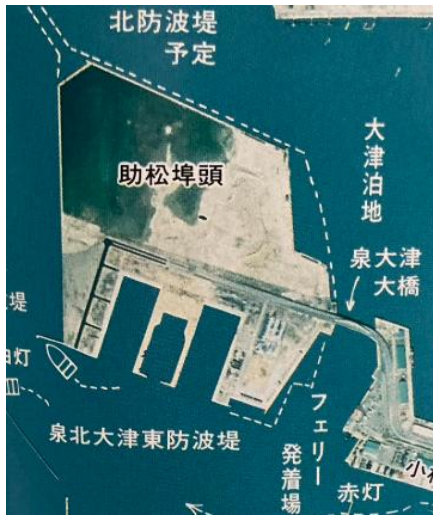
水鳥の渡来の多かった 大阪府域の埋立地

おおよその年代順

- ・南港埋立地
- ・泉大津助松ふ頭＝泉北6区
- ・堺第7-3区
- ・堺2区＝新日鉄
- ・舞洲
- ・泉大津フェニックス
- ・夢洲
- ・阪南2区
- ・大阪沖フェニックス(新島)

※阪南2区と大阪沖
フェニックス(新島)
が事業中で、その他
の場所は埋立が
ほぼ完了しています

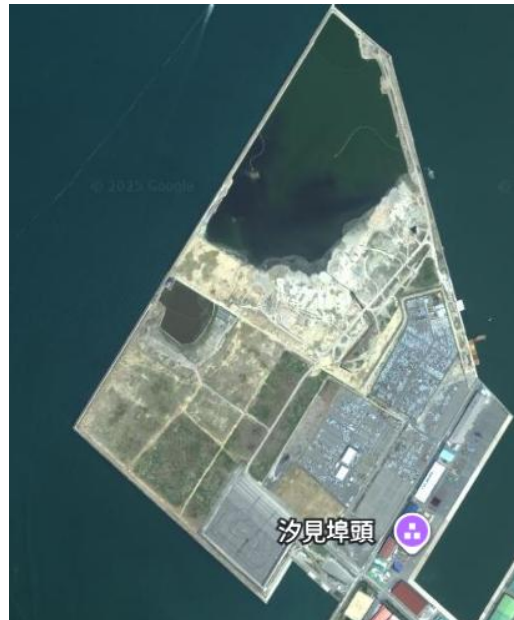
埋立地の環境は不安定
鳥たちの安住の地とはならない



1985年助松ふ頭



1985年 堺2区（新日鉄）堺第7-3区



2010年泉大津フェニックス



2005年 夢洲

埋立途上地が水鳥の飛来地
として機能

埋立て途上地にできた
干潟に集まるシギやチドリ
泉大津フェニックス



埋立ての進行に
より水辺は完全
に埋められ、今
はこの光景は見
られない

ハマシギ、トウネン、ムナグロなど

2015.5 泉大津フェニックス

夢洲の湿地環境が失われた影響は甚大

記録された鳥類：161種 内、レッドデータ記載種：74種

本州最大級のツクシガモ（絶滅危惧Ⅱ類）の飛来地が消失



生物の多様性を守るために極めて重要な
「生物多様性ホットスポットAランク」
という府民の貴重な財産が消失



近年減少が著しいシロチドリ



ヘラシギ幼鳥 2004年9月
最も絶滅が心配されるシギ



夢洲で繁殖するセイタカシギ

大阪湾シギ・チドリ渡来地復元計画

- ・ 20年以上にわたり大阪湾最大規模のシギ・チドリ渡来地として存在した夢洲の湿地環境が失われてしまいました。
- ・ 今こそ私たちは古くから渡り鳥にとって重要な渡来地であった大阪湾岸にシギやチドリの渡来環境を取り戻すために何が必要か、具体的な方法も含めて提案すべきときだと考えます。
- ・ そこで「大阪湾シギ・チドリ渡来地復元計画」をとりまとめ、昨年のお阪自然史フェスティバル・シンポジウム「みんなで守ろう大阪湾岸の自然～シギ・チドリの渡来地をとりもどそう～」で発表しました。

ネイチャーポジティブの実現のための壮大な挑戦を
大阪湾岸から

■大阪湾シギ・チドリ渡来地復元計画

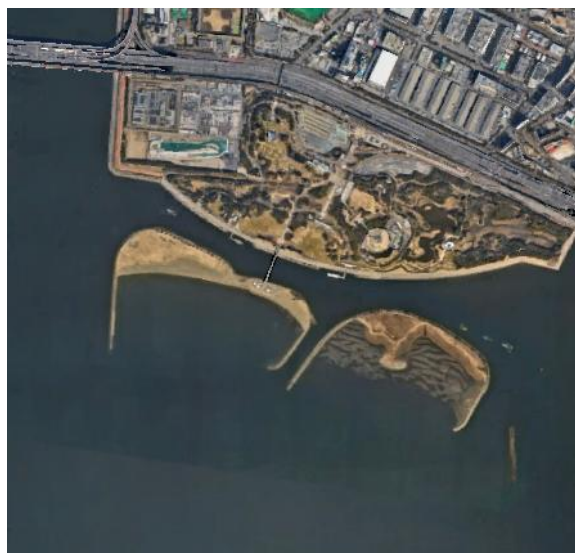
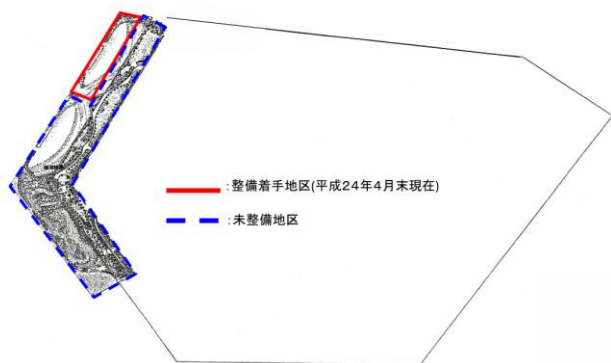
1 大阪湾の自然を取り戻すために まずは夢洲で

「自然の場所でないんで、元々埋立地なんでね。野鳥の楽園をつくるために埋め立てたんでもない。工事は継続しながらも野鳥が育つ環境は場所を変えてつくりたい。」

2022年6月の当時の松井大阪市長の会見コメント

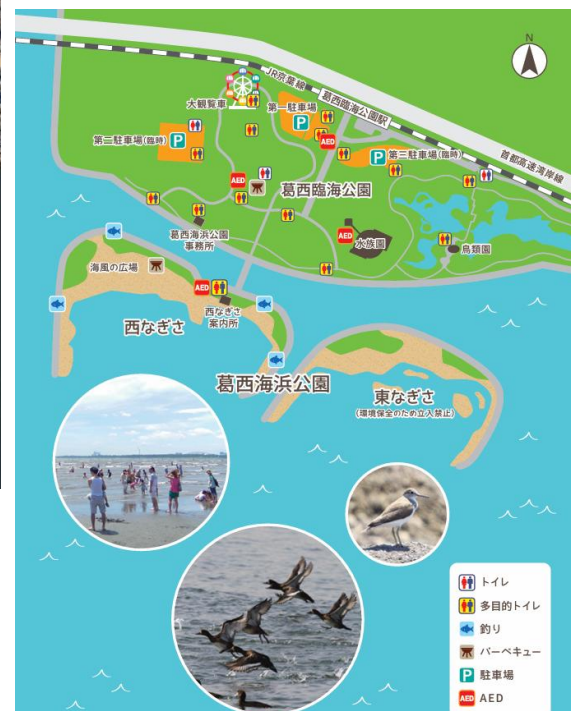
夢洲では、北港南海浜整備（エコポート）事業として、夢洲1区（西側）の地先に整備面積30ヘクタールの規模で砂浜、人工磯、干潟を造成する計画がありましたが、市の財政状況等を理由に2005年以降事業休止

進捗状況図（北港南海浜）



夢洲では東京湾の葛西海浜公園のような人工干潟（人の利用できる場所と、環境保全のための立入禁止エリアを設ける）の造成が望めます。葛西と同規模の400ヘクタールの干潟面積を確保したいと考えます。

葛西海浜公園



2 干潟造成の新たな候補地

① 岸和田貯木場

忠岡町と岸和田市にまたがる貯木場は、現在は貯木場としての活用は行われておらず、埋め立てて新たな産業用地にという動きも出始めています。

大津川河口にも近く、潮の干満もある海域であり、しゅんせつ土砂を投入すれば大きな干潟環境を造成することが可能な場所です。面積は、忠岡側と岸和田側をあわせて約80ヘクタールあることから、忠岡側を全面干潟とし、岸和田側を開水面として残すことで、多くの水鳥の生息できる多様な環境をつくることが可能です。

その昔よりの千鳥の洲なるべし

高浜年尾

当地の原風景は大津川河口から続く浜辺や干潟環境
産業用地にするのではなく、原風景を取り戻そう



1961（昭和36）年の空中写真

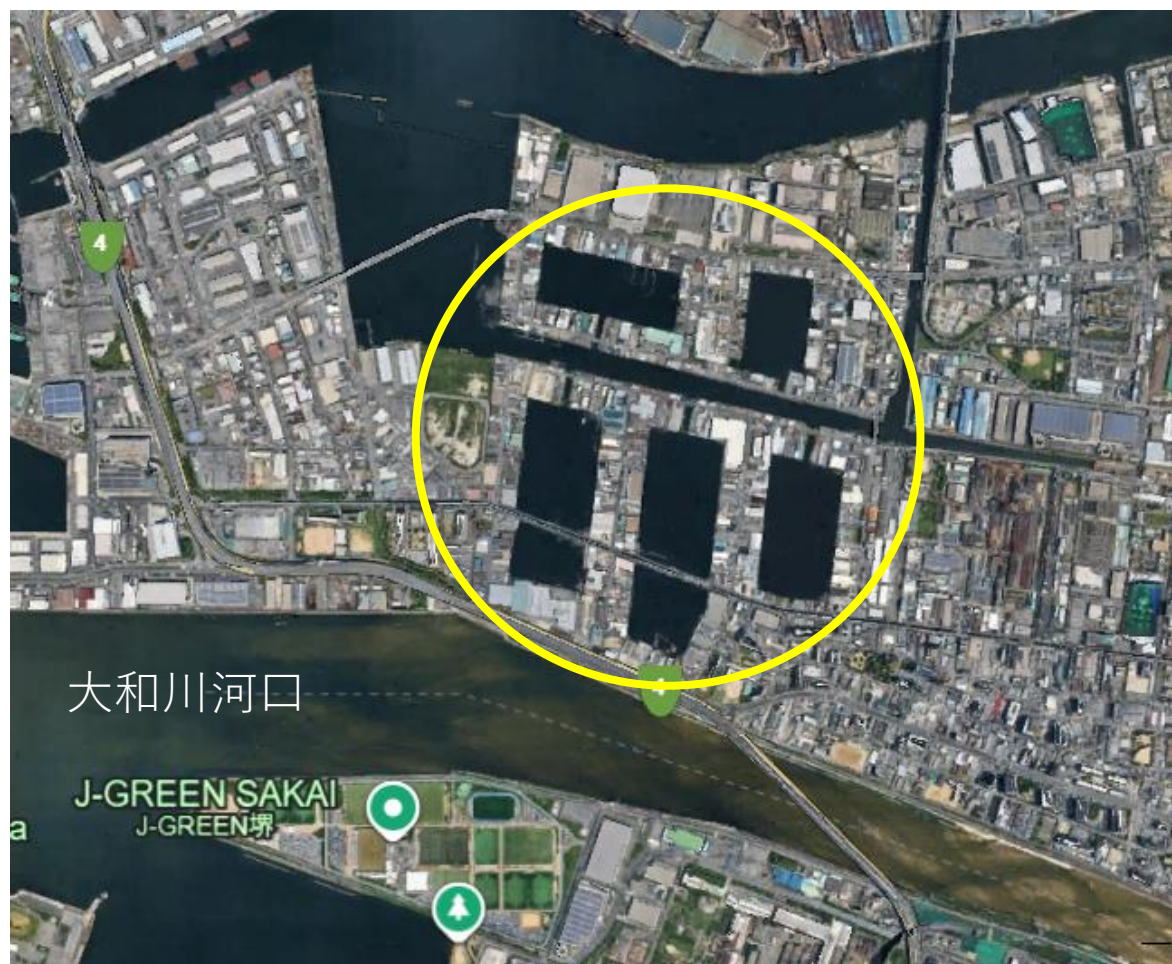


岸和田貯木場

② 平林貯木場

住之江区にある平林貯木場も、岸和田貯木場同様に貯木場として利用されておらず、干潟環境の造成の適地です。戦前、戦後の一時期に住吉浦として水鳥一大飛来地であったことなど、歴史的にも自然再興する意義のある場所です。

大和川の河口部とも隣接していることから、干潟や湿地を復元できれば、大和川河口部と一体として水鳥の一大渡来地になると考えられます。



③ 大阪沖フェニックス(新島)

南港野鳥園の沖にある産業廃棄物処分場です。現在、日本最大級のコアジサシとベニアジサシの集団営巣地となっています。全てを埋め立てるのではなく、人工干潟や湿地を造成することを考えるべきで場所です。



コアジサシ
2024年6月



ベニアジサシ 2024年5月



3 既存の人工干潟などの拡大や環境改善

大阪湾では南港野鳥園以外にも、人工干潟の造成が行われていますが、東京湾での事例に比べるとその規模は小さく、また干潟環境の維持や管理に十分な対応がとられていないところがほとんど。

① 堺2区人工干潟

2005年から大和川のしゅんせつ土砂の投入により造成。現在は砂の流出の影響でほとんど干潟が形成されていません。弓状に伸びた洲を東側の護岸につなぎ、流出防止対策をとったうえで、しゅんせつ土砂の投入を行えば、干潟が形成されるものと考えます。また浜辺の奥行を広くとり、海浜植物の生育を図ることで、シロチドリの営巣地となることが期待できます。



② 阪南2区人工干潟

関西電力の堺LNG基地の栈橋建設に伴い発生したしゅんせつ土砂の搬入により2004年に約5ヘクタールの南干潟が完成。同じく土砂の流出の影響で干潟が形成されない。今後、干潟の拡大や環境の改善などが図られることが期待されます。



③ 泉北6区先端緑地(助松)人工干潟

2003年から2006年にかけて造成された干潟で、面積が約2ヘクタールと小さく、主に春季に小型のシギ類が利用します。ピーク時には800羽を超すトウネンの記録もあります。現在、干潟の広い範囲をカキ礁が占めるようになり、シギ・チドリの渡来数も減少しています。カキ礁除去による干潟環境の改善が急がれます。



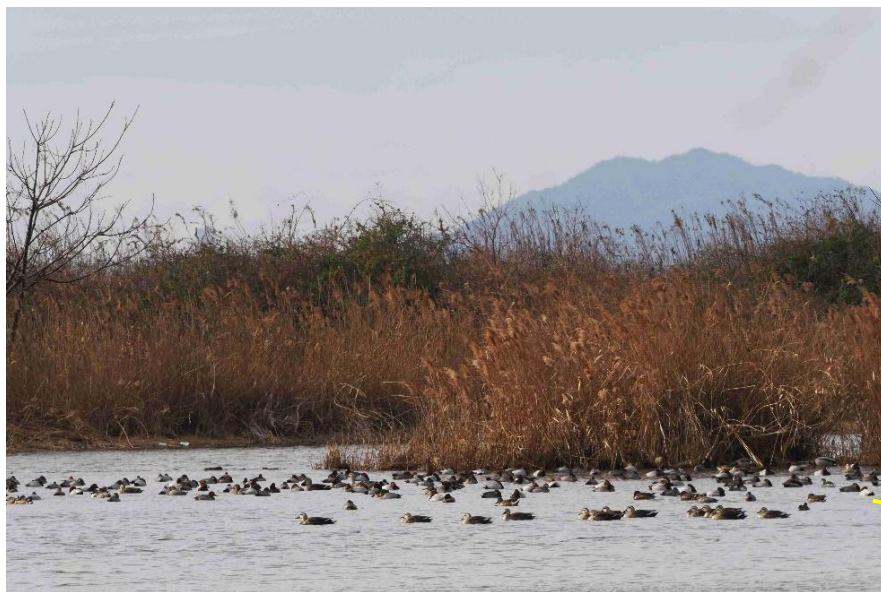
トウネン



4 堺第7-3区 淡水湿地を好むシギ・チドリの渡来地に

大和川河口の南西、大阪湾に大きく突き出した埋立地で、昨秋に「自然共生サイト」として登録された共生の森エリアは約110ヘクタールを有し、ヨシ原に囲まれた比較的大きな池が二つ存在します。地盤沈下の影響で池の水深があり以前のようにシギやチドリの群が飛来することがなくなっています。

しゅんせつ土砂の搬入により浅場を造成すれば、再びセイタカシギの繁殖が期待でき、淡水湿地を好むシギやチドリの貴重な生息地となります。



ヨシの茂る湿地に群れるカモ類 2024年1月



RSPBのJeff Kew（ジェフ キュー）氏 大阪湾岸を視察 2025年4月14日、15日



大阪湾岸の干潟や湿地の維持や復元についての助言をいただくため、大阪自然環境保全協会と日本野鳥の会大阪支部が招聘



南港野鳥園

視察地

新島（フェニックス大阪沖処分場）

南港野鳥園

平林貯木場

堺2区人工干潟

堺第7-3区

男里川河口

阪南2区人工干潟

岸和田貯木場

大津川河口



平林貯木場



堺第7-3区